

第 6 次総合計画の将来の目指す都市像及び基本目標について（案）

総合計画における、まちのあるべき姿や望ましい姿を現した「都市像」や「基本目標」については、短期間で変わるものではなく、長期的視点で実現を目指していくものである。そのような視点から、第 5 次総合計画策定の際には具体的な目標年次は設定しないものの、本市を取り巻く社会背景や課題の変化、各施策の成果指標の達成状況などを踏まえ、必要に応じて見直すこととしていた。

そこで、第 6 次総合計画の策定にあたり、以下のとおり検証を行う。

1. 第 5 次総合計画の都市像及び基本目標設定の経緯について

○市民ワークショップやアンケート、意見交換会等の様々な機会を設け、市民意見の集約を実施。その中で、大牟田の強みや本市の特徴等として、都市像及び基本目標の基となる 5 つのキーワード「はぐくみ・にぎわい・やさしさ・くらし・あんしん」を導き出した。

※市民意見で「人情が温かい」「気候が暖かい」「まちづくりは『人』に尽きる」、団体ヒアリングで、産業分野から「人を育てていくことが課題。」、教育分野から「まちづくりは、最終的には人。人づくりが必要。」との意見もあった。

○都市像の検討にあたっては、「市民」を中心に考え、「人」にこだわり、人づくりを大きなポイントとして設定。都市像に掲げるフレーズは、「はぐくみ」から人が育ちの育ち、「にぎわい」からにぎわい、「やさしさ」から大切にする、「くらし」・「あんしん」からほっとシティのほっとを導き出した。あわせて、ほっとについては、「あたたかい」「にぎわっている」「大蛇の火」といった意味も込めている。

⇒【第 5 次総合計画の都市像】

人が育ち、人でにぎわい、人を大切にする ほっとシティおおむた

2. 第 5 次総合計画期間の振り返りについて

(1) 第 5 次総合計画期間の施策・事業の進捗（参考資料 1）

○都市像の実現に向けて、「はぐくみ・にぎわい・やさしさ・くらし・あんしん」の 5 つの基本目標を掲げ、その実現のための施策・事業に取り組んできた。

○様々な取組みの中でも、特に喫緊の課題である人口減少に歯止めをかけ、少子高齢化に対応するため、安心して子どもを産み育てたいと思えるような環境づくりや特色ある学校教育の展開、企業誘致や市内企業の競争力強化、新規創業の促進に取り組んできた。

○人口は、自然動態・社会動態ともに減少傾向は続いているものの、過去 10 年間における社会動態の推移は改善傾向にある。

○市制 100 周年を記念した様々な取組みやシティプロモーション活動を進める中においては、若い世代を中心にアイデアや行動力を活かした積極的な取組みも展開されており、次の 100 年に向けたまちづくりへの意欲が確実に芽吹いてきている。

(2) 基本目標毎の主な課題

- 基本目標「はぐくみ」については、子育ての負担感・不安感の軽減や仕事と家庭の両立支援、出会いの場の創出を続けて行うことが必要である。また、教育においてはESD(持続可能な開発のための教育)などの特色ある教育や知育・徳育・体育のバランスが取れた教育の継続した推進が必要である。あわせて、地域や社会全体で青少年の健全な育成を図ることが必要である。
- 基本目標「にぎわい」については、さらなる地域経済の活性化に向け、地域企業の競争力強化や新規創業の促進、産業の多様化を図ることが必要である。また、企業や関係団体、近隣自治体との連携による観光商品の開発や地域資源を活用した取組みが必要である。こうした取組みをはじめ、様々な大牟田の魅力を市内外へ発信することで、移住・定住人口や交流人口の拡大に繋がるよう、効果的なプロモーション活動が必要である。
- 基本目標「やさしさ」については、地域住民同士の支え合いや助け合いの意識も高まりつつあるが、引き続き、更なる地域のつながりづくりを進める必要がある。また、市民自らの健康づくりを促進するとともに、心身の状況に応じて、適切な医療・介護サービスを切れ目なく受けることが出来る地域包括ケアシステムの構築に取り組むことが必要である。
- 基本目標「くらし」については、人口減少・少子高齢化が進行する中、都市のコンパクト化を図り、交通網を活かした持続可能なまちづくりを進めていく必要がある。また、環境負荷の少ないまちづくりのためには市民や事業者への意識啓発が必要だが、意識向上と定着には時間を要するため、継続的な取組みを実施することが必要である。
- 基本目標「あんしん」については、高齢者が多いという本市の特性を念頭に、警察・消防や地域との連携による取組みが必要である。また、全国的に大規模な自然災害が相次ぐなか防災・減災へのさらなる注力が必要である。

⇒都市像の実現に向け、第5次総合計画に掲げる施策や事業を着実に進めているものの、基本目標それぞれに課題も残されており、都市像の実現の途上にある。

3. 本市を取り巻く社会背景や課題の変化について（参考資料2）

- 国全体で依然として、人口減少・少子高齢化が進んでおり、引き続き人口減少に歯止めをかけ、地域経済を活性化させる地方創生に取り組むことが必要。（地方創生は『人』が中心と明記されている。）
- 「世界中の誰一人取り残さない」社会の実現を目指すSDGs（持続可能な開発目標）との関連を意識しながら、中長期を見通した持続可能なまちづくりに取り組むことが重要であり、あわせて、ESDの推進などにより、持続可能な社会の創り手の育成が必要。
- AI・ロボット等の技術革新による社会の変化や、グローバル化の進展による人的交流の促進が見込まれる中、時代の流れに対応できる人づくりが必要。

○地域共生社会の実現や安心安全のまちづくりは、あらゆる主体（人）が連携・協働し、互いに支え合うことが必要。

⇒上記を踏まえ、本市においても、引き続き「人」を中心としたまちづくりを進めていくことが必要。

4. 第6次総合計画の将来の目指す都市像及び基本目標について

○社会背景や課題の変化においては、「人」が中心とされていたり、「人づくり」が必要とされたりしている。具体的には、地方創生による「にぎわい」の創出、持続可能な社会を創る担い手や時代の流れに対応できる人を「育む」こと、地域共生社会の実現や安心安全のまちづくりにより「人を大切にする」こと等が依然として課題となっている。

○現在、第5次総合計画に掲げる施策や事業は着実に進捗しているものの、人口減少の抑制についての取組みは、まだ緒に就いたばかりである。また、第6次総合計画策定に向けた市民意識調査においても、第5次総合計画で重点的に取り組んできた「子育て」「教育」「産業・雇用」に係る施策はいずれも重要度が高いという結果となっている。

○この4年間で培ってきたまちづくりの基盤や意欲を活かしつつ、更に発展させていくべき。



第5次総合計画の都市像及び基本目標を継承し、その実現に向けて各施策を推進する

[参考] これまでの総合計画

第一次総合計画（S.46～S.60）

1. 新しい、住みよい市民連帯のまち
(1)生活を楽しみ、親しみあふれるまち
(2)清潔で、明るい、美しいまち
(3)産業のバランスのとれた豊かなまち
2. 中部有明地方の中核都市へ

第二次総合計画（S61～H7）

1. 魅力あふれる中核都市
2. 活力ある産業都市
3. 生きがいにみちた健康都市
4. 心豊かな文化都市
5. みんなでつくる市民都市

第三次総合計画（H8～H17）

キャッチフレーズ 九州をつなぐ多機能都市・おおむた

1. やすらぎと魅力にあふれる快適環境都市
2. にぎわいと活力にあふれる産業創造都市
3. 健康で心ふれあう市民交流都市

総合計画2006～2015（H18～H27）

キャッチフレーズ やさしさとエネルギーあふれるまち・おおむた

いこい、やすらぐ安心都市

活力と創意にあふれる産業都市

市民と歩む自立都市

総合計画 まちづくり総合プラン2016～2019（H28～H31）

都市像 人が育ち、人でにぎわい、人を大切にする ほっとシティおおむた

基本目標

1. はぐくみ 未来を拓く人がはぐくまれています
2. にぎわい 地域の宝が活かされ、にぎわいのあるまちになっています
3. やさしさ 支えあい、健やかに暮らせています
4. 暮らし 都市と自然が調和した快適なまちになっています
5. あんしん 安心して安全に暮らせています